

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価概要

三重県地域公共交通協議会

令和4年3月23日 設置

令和5年6月20日 令和6年度三重県生活交通確保維持改善計画策定

令和6年3月 三重県地域公共交通計画策定

1.目的

○令和6年度三重県生活交通確保維持改善計画（幹線バス）

目的：広域交通を担う地域間幹線系統の維持・確保

- ・三重県地域公共交通協議会において45系統※を位置付け。
※R6.3.31付けで上野天理線が奈良県山添村の自主運行バスに転換となり最終的には44系統
- ・県内に拠点を置く三重交通グループの4事業者によって運行。

【計画の適切性】

みえ元気プラン

11-2 公共交通の確保・充実

基本事業1：地域の輸送資源の総動員による持続可能な移動手段の確保



令和6年度三重県生活交通確保維持改善計画

2.協議会の実施状況と主な議題

○令和5年度第1回総会及び第1回生活交通確保対策部会

日 時：令和5年6月20日

主な議題：令和6年度三重県生活交通確保維持改善計画策定について

○令和5年度第2回総会

日 時：令和5年10月25日

主な議題：三重県地域公共交通計画（中間案）素案について

○令和5年度第2回生活交通確保対策部会

日 時：令和6年1月15日

主な議題：令和5年度三重県生活交通確保維持改善計画に係る自己評価について

○令和5年度第3回総会及び第3回生活交通確保対策部会

日 時：令和6年2月22日

主な議題：三重県地域公共交通計画最終案について

○令和6年度第1回総会及び第1回生活交通確保対策部会

日 時：令和6年6月25日

主な議題：令和7年度地域間幹線バス確保維持計画について

○令和6年度第2回生活交通確保対策部会

日 時：令和7年1月15日

主な議題：令和6年度三重県生活交通確保維持改善計画に係る自己評価について

3.運行結果について

○定量的な目標の設定

「1日当たりの輸送量」について、当該路線を安定的に維持し続けることができるとみなした数値を定量的な目標として設定。

○評価の達成状況等

<評価の達成状況>

評価	達成率※1	系統数※2
A	達成率100%以上	28 (28)
B	達成率 90%以上100%未満	5 (5)
C	達成率 90%未満	11 (12)

※1 達成率 = 令和6年度実績輸送量 / 目標輸送量 × 100

※2 カッコ内は昨年度の数

<年間輸送人数推移>

令和6年度	3,627,164人
令和5年度	3,351,760人
増 減	+275,404人

○全体の考察

輸送量の減少の要因について、従来は利用者減少に起因するものであったが、近年では要員不足に起因する減便や、要員確保を目的とした運賃改定に伴う平均賃率の変動といった要因によっても輸送量が減少。地域間幹線系統の維持について、ご利用の維持のみならず事業者における要員確保に対しても支援が必要と認識。

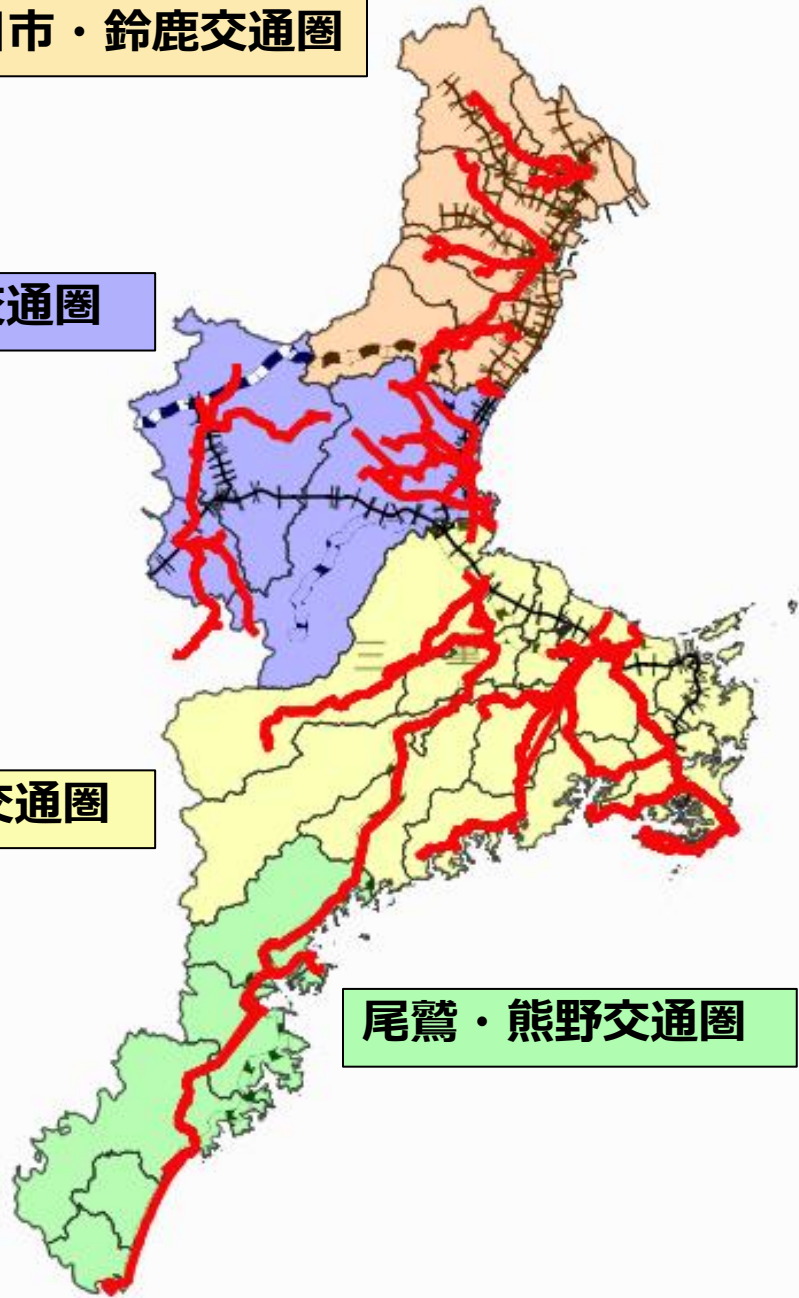
4.三重県の交通圏

桑名・四日市・鈴鹿交通圏

津・伊賀交通圏


伊勢・松阪交通圏

尾鷲・熊野交通圏



交通圏	系統数
桑名・四日市・鈴鹿	8
津・伊賀	16
伊勢・松阪	16
尾鷲・熊野	4
計	44

※複数交通圏を運行する系統は
起点が属する交通圏でカウント

地域間幹線系統： 

5.交通圏ごとの運行結果について

<桑名・四日市・鈴鹿交通圏>

番号	系統名	輸送量目標	輸送量実績	評価
1	桑名阿下喜(B)	35.3人	46.2人	A
2	四日市福王山	35.5人	43.2人	A
3	水沢	27.3人	34.3人	A
4	平田四日市	20.5人	26.0人	A
5	平田亀山(B)	18.0人	19.7人	A
40	亀山椋本	15.0人	10.2人	C
41	亀山みずほ台	15.0人	17.2人	A
42	梅戸(B)	55.5人	89.0人	A

<津・伊賀交通圏>

番号	系統名	輸送量目標	輸送量実績	評価
6	津太陽の街	15.0人	20.9人	A
7	安濃	27.2人	34.3人	A
8	辰水(A)	15.0人	15.5人	A
9	津三雲	36.7人	44.1人	A
10	榊原(A)	46.9人	53.8人	A
11	榊原(C)	18.5人	24.9人	A
12	長野	38.0人	40.1人	A
13	椋本	86.3人	102.6人	A
14	香良洲	55.6人	57.5人	A
15	波瀬	15.0人	17.2人	A
16	久居高茶屋	36.8人	47.6人	A
17	上野名張(A)	27.2人	36.7人	A
18	曾爾香落溪	15.0人	17.0人	A
19	名張奥津(B)	15.0人	13.4人	C
20	阿波	15.0人	10.0人	C
21	玉滝(B)	15.0人	7.5人	C

5.交通圏ごとの運行結果について

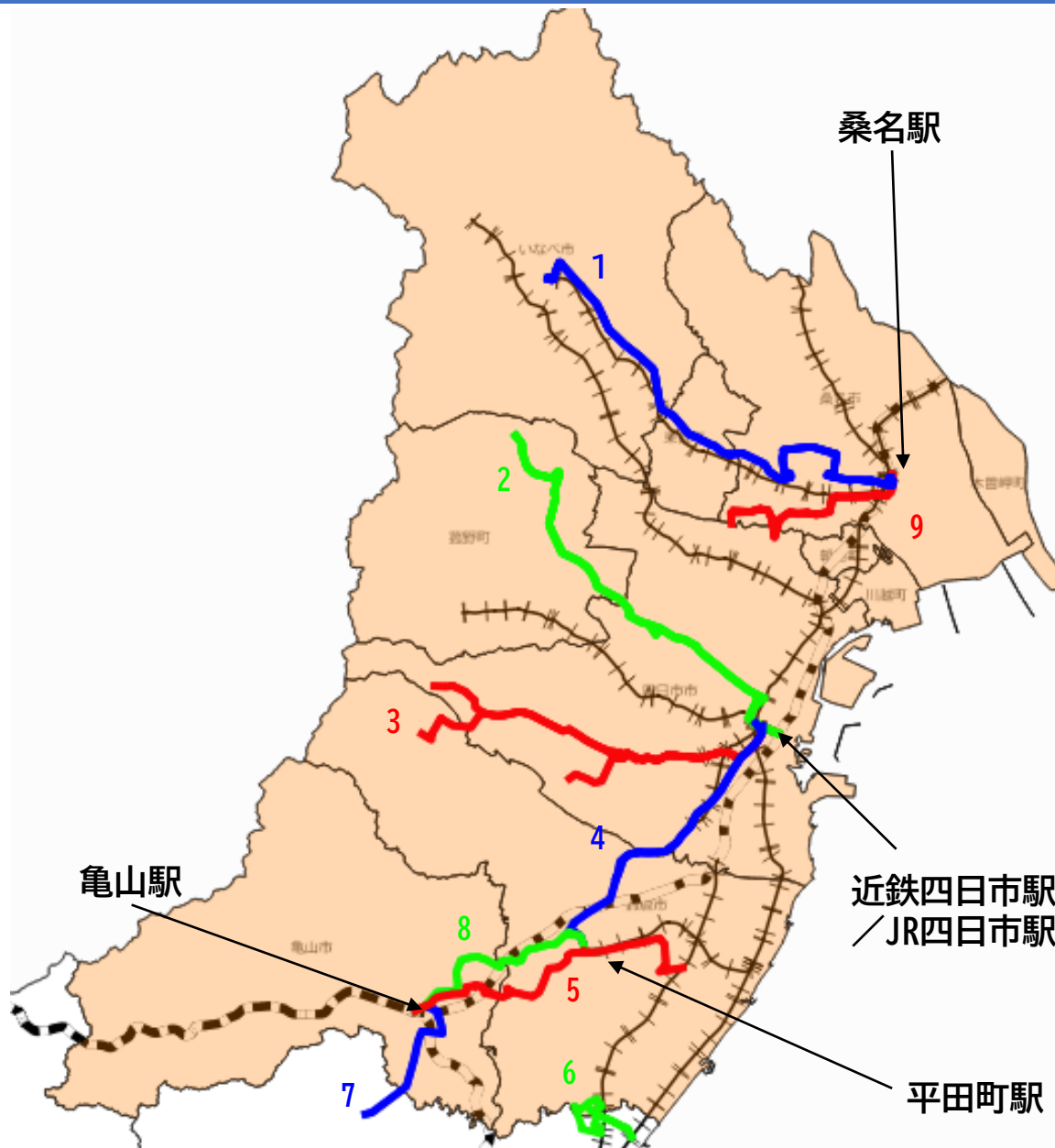
<伊勢・松阪交通圏>

番号	系統名	輸送量目標	輸送量実績	評価
22	大杉(A)	15.0人	14.4人	B
23	飯南波瀬(A)	34.9人	32.6人	B
24	飯南波瀬(B)	16.5人	18.0人	A
25	松阪大石	35.6人	41.4人	A
26	南島	22.0人	21.6人	B
27	中川	26.6人	30.8人	A
28	土路今一色	15.0人	7.8人	C
29	御座(A)	15.6人	20.4人	A
30	御座(B)	40.8人	46.4人	A
31	宿浦(A)	20.9人	20.9人	A
32	宿浦(B)	15.0人	14.8人	B
33	五ヶ所(A)	15.0人	15.4人	A
34	五ヶ所(B)	15.0人	11.9人	C
37	松阪熊野	15.0人	4.5人	C
43	大杉(B)	15.0人	13.2人	C
44	伊勢玉城	15.0人	22.3人	A

<尾鷲・熊野交通圏>

番号	系統名	輸送量目標	輸送量実績	評価
35	熊野新宮(A)	15.0人	13.6人	B
36	熊野新宮(B)	15.0人	7.3人	C
38	島勝	15.0人	4.8人	C
39	尾鷲長島	15.0人	7.2人	C

6.桑名・四日市・鈴鹿交通圏について



図番号	系統名	輸送量/日	評価
1	桑名阿下喜 (B)	46.2人	A
2	四日市福王山	43.2人	A
3	水沢	34.3人	A
4	平田四日市	26.0人	A
5	平田亀山(B)	19.7人	A
6	津太陽の街	20.9人	A
7	亀山棕本	10.2人	C
8	亀山みずほ台	17.2人	A
9	梅戸(B)	89.0人	A

6. 桑名・四日市・鈴鹿交通圏について

	桑名市	いなべ市	東員町	木曽岬町	四日市市	菰野町
日常交通圏	桑名	桑名	桑名	桑名	四日市	四日市
人口※1	136,139人	44,321人	25,776人	5,759人	301,956人	39,973人
面積※2	136.65km ²	219.83km ²	22.68km ²	15.74km ²	206.50km ²	107.01km ²
高校数※3	5	1	0	0	13	1
病院数※4	8	4	2	0	13	1
高齢化率※1	27.5%	27.9%	32.4%	34.0%	26.1%	26.8%

	川越町	朝日町	鈴鹿市	亀山市
日常交通圏	四日市	四日市	鈴鹿	鈴鹿
人口※1	15,495人	11,077人	192,201人	49,614人
面積※2	8.72km ²	5.99km ²	194.46km ²	191.04km ²
高校数※3	1	0	6	1
病院数※4	0	0	10	3
高齢化率※1	18.5%	18.8%	25.2%	26.0%

※1：「みえDataBox」（三重県政策企画部統計課より令和5年10月1日時点）

※2：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（令和6年7月1日現在）

※3：令和5年度学校基本調査

※4：令和4年医療施設調査

7.実施した取組

○地域別ワーキンググループの開催

協議会に設置されている地域幹事会毎にワーキンググループを開催。地域間幹線系統の対策を中心に議論を行いました。

【令和6年度開催状況】

- ①伊賀地域 (R6.7.9) 、 ②東紀州地域 (R6.7.30)
- ③伊勢志摩地域 (R6.8.22) 、 ④松阪地域 (R6.9.4)
- ⑤中勢地域 (R6.10.25) 、 ⑥北勢地域 (R7.2.5予定)

○合同施策検討会の実施

地域における課題や状況を共有し、解決に向けた方策を検討するため、中部運輸局交通企画課・県・市町による合同施策検討会を実施しました。

【令和6年度開催状況】

- ①川越町 (R6.5.9) 、 ②名張市 (R6.6.5) 、 ③大台町 (R6.8.20) 、
- ④明和町 (R6.8.20) 、 ⑤尾鷲市 (R6.11.8)



7.実施した取組

○地域内交通ネットワーク構築につなげる財政的支援

交通不便地域等において、高齢者の買い物や通院、若者の通学などの日常的な移動手段や、観光地での二次交通などを確保するため、市町や事業者が行う取組の費用の一部に対して支援を実施しました。

【令和6年度支援実施状況】

- ・11市町、5事業者に対し支援を実施。

例：デマンド実証事業（志摩市）、幹線との乗継拠点整備（三重交通、南伊勢町）

○運転手確保に向けた取組

深刻化するバス運転手不足への対策として、三重県移住促進課、県内バス事業者と連携し、ドライバー専門の就職フェアである「どらなびEXPO」に県としてブースを出展し、移住関係の相談にもワンストップで対応する取組を今年度初めて実施しました。

【令和6年度出展状況】

①大阪会場（R6.9.28）

ブース	三重交通
来訪者数	33名

②東京会場（R6.10.12）

ブース	三重交通	三岐バス
来訪者数	31名	14名

8.今後の課題と対策

【課題】

- ・ **地域間幹線系統の維持困難化**
- ・ **交通不便地域等における自家用車を運転できない人のための移動手段の確保**
- ・ **事業者におけるバス運転士等の不足**

【対策】

① **地域の移動需要に応じた運行体系の構築**

→朝夕の通勤・通学、昼間の買い物や通院といった時間帯に応じて地域の移動需要に合わせた運行体系への見直しを進めます。

② **運行の効率化による省力化、収支改善**

→利用者の利便性を可能な限り損なわない範囲での重複区間の解消といった運行の効率化を図ります。

③ **国制度の活用**

→市町や事業者と連携して利便増進事業や地域旅客運送サービス継続事業を実施することで、継続して国補助金を受給しつつ、系統の維持を図ります。

④ **運転手確保に係る支援**

→運転手確保に向け、交通事業者や移住促進分野と連携して取組を進めます。

9.二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	維持が危ぶまれる地域間幹線系統については、引き続き、定期的な状況把握、地域別WGも含めた利用促進や系統維持に向けた関係事業者や沿線自治体等との協議や連携した取組の実施に期待します。	県内を6地域に分け、地域毎に関係市町、バス事業者、三重運輸支局と連携して地域別WGを開催し、地域間幹線系統の維持に向けた対応策について意見交換を実施しました。	引き続き、地域別WGの開催を通して、地域内バス路線の維持確保について意見交換を実施すると共に、地域間幹線系統維持のための対策を検討、実施していきます。
	新たに策定される地域公共交通計画に基づき、効果的で持続可能な公共交通サービスが維持・改善されていくことを期待します。	交通不便地域等において、高齢者の買い物や通院、若者の通学などの日常的な移動手段や、観光地での二次交通などを確保するため、市町等が行う取組の費用の一部に対し支援を実施しました。	市町等が行う取組に対する支援を継続して実施していくと共に、幅広い取組に効果的な支援ができるよう、支援制度の継続的なブラッシュアップを行います。
	運転者不足や運転者に係る働き方改革の動向も踏まえながら、国、市町、事業者等と連携しながら人材確保に係る取組や支援を進められることを期待します。	運転手確保に向け、県内バス事業者と連携して「どらなびEXPO」に出展し、バス事業者の運転手確保と三重県への移住促進に取り組みました。	「どらなびEXPO」への出展といった事業者と連携した取組を継続すると共に、より効果的な取組の検討・実施を行います。

9.二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	維持が危ぶまれる地域間幹線系統について課題を洗い出すとともに、系統維持に向けた関係事業者や沿線自治体等と連携した取組の実施、地域別WGの取組の推進に強く期待する。	県内を6地域に分け、地域毎に関係市町、バス事業者、三重運輸支局と連携して地域別WGを開催し、地域間幹線系統の維持に向けた対応策について意見交換を実施しました。	引き続き、地域別WGの開催を通して、地域内バス路線の維持確保について意見交換を実施すると共に、地域間幹線系統維持のための対策を検討、実施していきます。
	広域な地域公共交通計画の策定に関して、令和4年度調査事業の調査結果を活用し県と市町の役割分担を明確にし、各市町の地域公共交通計画との整合性を図りつつ引き続き検討を進めることを期待する。	令和4年度の基礎調査で明らかになった本県の地域公共交通の現状や課題をふまえ、具体的な施策やKPI等についての検討を進めていき、令和6年3月に県地域公共交通計画を策定しました。	持続可能な公共交通サービスを維持すべく、策定した県地域公共交通計画や、市町地域公共交通計画との整合性を図りながら、効果的な事業や施策を検討・実施していきます。
	県内公共交通の利便性向上に向けインターネットを通じたバス路線等の乗継情報の掲載率向上、利用者への使い方のPR等に取り組むことを強く期待する。	インターネットを通じた県内の公共交通の乗継情報の提供を推進する「見える化事業」について、事務局として取りまとめや情報提供を行いました。	「見える化事業」について、事務局として引き続き本事業に注力すると共に、未参加の市町に対しても本事業の利点を広く呼びかけ、掲載率の向上に努めます。

(別添 1-2)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月15日

協議会名：

三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名：

陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

地域の交通の目指す姿
(事業実施の目的・必要性)

【目指す姿】
観光・交流や産業などの往来が多いことから、市町や県境を越えた移動を支える広域交通ネットワークの確保・充実
⇒広域交通ネットワークを担う地域間幹線系統の確保・充実が必要

協議会名： 三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
			輸送量				収支率		輸送量 目標：(人) 実績：(人)		
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)			
1 三重交通(株) 桑名阿下喜(B)線	桑名駅前ーヨナハ丘の上病院、いなべ総合病院ー阿下喜(車両減価償却費等国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	38.0	46.2	3.4	13.6	42.5	42.4%	輸送量 目標：35.3人 実績：46.2人	○各路線への共通する考え方(取組) ・人口減少が進む中でバス路線を維持するため、各路線ごとの状況や特性を把握分析し、多様な移動需要に対応した運行形態となるよう、その方策を事業者・市町とともに検討実施する必要がある。 ・バス運転士の不足が深刻化の中でバス路線を維持するため、運行の効率化を進めていく必要がある。
2 三重交通(株) 四日市福王山線	JR四日市ー川原崎ー福王山(車両減価償却費等国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	37.4	43.2	4.5	9.6	55.7	60.6%	輸送量 目標：35.5人 実績：43.2人	本路線は、四日市市中心部と菟野町北部を結ぶ路線である。メリノール学院へ通学する中高生の通学や、四日市市内への通勤が主な利用と想定されている。通勤、通学に利用しやすい路線となるよう効果的な利用促進に努める必要がある。菟野町MaaS「おでかけこもの」と連携し、さらなる利便性向上と利用促進を図る。
3 三重交通(株) 水沢線	JR四日市ー室山、高花平ー樺大神社(車両減価償却費等国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	33.6	34.3	4.9	7.0	63.8	65.9%	輸送量 目標：27.3人 実績：34.3人	本路線は、四日市市中心部より四日市市内の大規模団地を經由して鈴鹿市北部まで至る路線である。沿線に位置する高校への通学利用や団地住民の通勤利用、終点の樺大神社や宮妻峽等の地域資源、観光スポット等へのアクセス手段としてPRする等、多様な利用促進に努める必要がある。
4 三重交通(株) 平田四日市線	近鉄四日市(イオンタウン四日市泊)ー国道加佐登ー平田町駅	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	24.4	26.0	3.3	7.9	57.3	50.5%	輸送量 目標：20.5人 実績：26.0人	本路線は、近鉄四日市駅から四日市市南部エリアを経て鈴鹿市内に至る路線で、通学等の重要な交通手段となっており、地区によっては、唯一の公共交通となっている。沿線には大型商業施設や高等学校、工業団地があることから、買い物利用客の需要喚起や、通勤、通学利用の促進等に取り組むことが必要である。渋滞が発生しやすい区間が多く、定時性の確保が大きな課題である。
5 三重交通(株) 平田亀山(B)線	亀山駅ー平田町駅ー鈴鹿中央病院ー安塚	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	17.2	19.7	2.3	8.6	48.0	36.0%	輸送量 目標：18.0人 実績：19.7人	本路線は、亀山市内と鈴鹿市内を結ぶ路線である。沿線に所在する総合病院、亀山駅や平田町駅での乗降が多い。その他沿線には大型商業施設(イオンモール鈴鹿)、工業団地があることから、地域住民のニーズ等も把握しながら、利用しやすい情報提供等、多様な利用促進に努める必要がある。
6 三重交通(株) 津太陽の街線	千里駅前ー杜の街中央ー太陽の街ー千里駅前	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	37.4	20.9	1.9	11.0	38.8	31.7%	輸送量 目標：15.0人 実績：20.9人	本路線は、大規模な郊外住宅団地(太陽の街、杜の街、千里団地)沿線を運行し、近鉄千里駅に至る路線である。沿線地域における通勤、通学の移動手段として欠かせない路線となっており、近鉄千里駅での乗降が多くなっている。近年は利用が低迷していたが、「杜の街」団地における分譲開発を見据えて令和5年10月1日より運行経路を変更し循環系統となり、同変更によって運行が効率化され輸送量が20人を超えた。今後も継続的な利用促進を実施し、利用者数を維持することが求められる。

協議会名： 三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
			輸送量				収支率		輸送量 目標： 実績：		
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)			
7 三重交通(株) 安濃線	津駅前-安濃総合庁舎前-市場	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	31.3	34.3	3.4	10.1	49.3	48.6%	輸送量 目標：27.2人 実績：34.3人	本路線は、津市中心部と安濃地域を結ぶ路線である。津駅、津新町駅での乗降が多く、安濃地域の住民にとっては津市中心部さらには津市外への移動手段として重要な路線である。通勤・通学目的の利用者が多く、日中時間帯における利用者の確保が課題となっている。津市で取り組まれている「シルバーエミカ」との相乗効果を模索するなど、様々なニーズでの利用が広がるよう効果的な利用促進に努める必要がある。
8 三重交通(株) 辰水(A)線	津駅前-殿舟団地-今徳-穴倉	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	14.5	15.5	3.1	5.0	52.7	48.7%	輸送量 目標：15.0人 実績：15.5人	本路線は、美里地域及び安濃地域と津市中心部を結ぶ路線である。津駅、津新町駅での乗降が多く、美里地域及び安濃地域の住民にとって津市中心部さらには津市外への重要な移動手段となっている。輸送量が低迷しており、国庫補助要件の下限を僅かに上回る程度である。今後、輸送量減少に歯止めがかからず輸送量が国庫補助要件の下限を下回ることとなると、路線の見直しが必要となる。沿線には高校、総合病院、官公庁等も多いことから、通勤、通学、通院等、様々なニーズでの利用が広がるよう、津市で取り組まれている「シルバーエミカ」との相乗効果を模索するなど、効果的な利用促進に努める必要がある。
9 三重交通(株) 津三雲線	津駅前-イオンモール津南-天白回転場	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	38.8	44.1	4.2	10.5	68.6	70.4%	輸送量 目標：36.7人 実績：44.1人	本路線は、津市中心部と松阪市北東部を結ぶ路線である。沿線には大型商業施設（イオンモール津南）があり、大型商業施設のオープンより利用者が増加している。また、令和3年11月1日には「空港アクセス港」で接続する津エアポートラインのダイヤ改正に合わせて接続ダイヤの見直しを行った。通勤、通学、買い物等の利用が多い一方、空港アクセス線港での乗降は平日休日共に少なくなっている。今後は、様々なニーズでの利用が広がるよう、大型商業施設利用者のマイカーからの転換、コミュニティバスとの乗継設定等とおして、情報発信の強化、利用促進が必要である。
10 三重交通(株) 榊原(A)線	津駅前(一七栗記念病院前)-下村-榊原車庫前(車両減価償却費等国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	46.9	53.8	3.9	13.8	57.7	57.5%	輸送量 目標：46.9人 実績：53.8人	本路線は、久居地域と津市中心部をつなぐ路線である。主に久居駅での乗降が多くなっており、久居地域と津市中心部さらには津市外とを結ぶ重要な路線である。沿線には観光施設や総合病院もあり、令和元年7月からは、ベビースター工場一体型テーマパーク（おやつタウン）に乗り入れを行っており、利便性向上や利用促進のため、おやつタウン経由便を強化している。引き続き様々なニーズでの利用が広がるよう、津市で取り組まれている「シルバーエミカ」との相乗効果を模索するなど、効果的な利用促進に努める必要がある。
11 三重交通(株) 榊原(C)線	津駅前-いなば園前-榊原車庫前(車両減価償却費等国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	20.3	24.9	4.3	5.8	49.8	52.8%	輸送量 目標：18.5人 実績：24.9人	本路線は、久居地域と津市中心部をつなぐ路線である。主に久居駅での乗降が多くなっており、久居地域と津市中心部さらには津市外とを結ぶ重要な路線である。沿線には観光施設や総合病院もあり、令和元年7月からは、ベビースター工場一体型テーマパーク（おやつタウン）に乗り入れを行っており、利便性向上や利用促進のため、おやつタウン経由便を強化している。津市で取り組まれている「シルバーエミカ」との相乗効果を模索するなど、効果的な利用促進に努める必要がある。
12 三重交通(株) 長野線	津駅前-片田(一片田団地)-平木(車両減価償却費等国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	39.1	40.1	3.4	11.8	54.4	48.5%	輸送量 目標：38.0人 実績：40.1人	本路線は旧美里村や津市内の郊外住宅団地（片田団地）と津市中心部を結ぶ路線である。津駅、津新町駅での乗降が多く、美里地域及び津市西部地域と津市中心部さらには津市外を結ぶ重要な路線である。沿線には高校、総合病院、官公庁等も多いことから、様々なニーズでの利用が広がるよう、津市で取り組まれている「シルバーエミカ」との相乗効果を模索するなど、効果的な利用促進に努める必要がある。

協議会名：三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
			輸送量				収支率		輸送量 目標：(人) 実績：(人)		
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)			
13 三重交通(株) 棕本線	イオンモール津南-柳山-棕本 (車両減価償却 費国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	92.9	102.6	6.3	16.3	76.9	74.6%	輸送量 目標：86.3人 実績：102.6人	本路線は、津市北部の芸濃地域から津市中心部を通り、津市南部にある大型商業施設までを結ぶ路線である。津市中心部を南北に横断する形となることから利用ニーズは多岐にわたる。大型商業施設への乗り入れを実施以降、利用が多くなっている。今後もより利用しやすい路線となるようコミュニティバスを含めた他の路線との乗継利便性の向上等とおして相乗効果を生み出していく必要がある。
14 三重交通(株) 香良洲線	津駅前-イオン モール津南-香 良洲公園	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	55.6	57.5	4.2	13.7	68.3	65.1%	輸送量 目標：55.6人 実績：57.5人	本路線は、津市南東部の香良洲地域と津市中心部を結ぶ路線である。商業施設（イオン津、イオンモール津南）への移動を可能としている路線で津市中心部を南北に横断することから通勤、通院、買物等さまざまなニーズがある。香良洲地域の住民にとっては、津市中心部更には津市外とを結ぶ重要な路線である。
15 三重交通(株) 波瀬線	三重中央医療セ ンター-久居駅-室 の口	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	16.3	17.2	1.8	9.6	37.6	28.9%	輸送量 目標：15.0人 実績：17.2人	本路線は、津市一志地域及び久居地域を運行する路線である。沿線には高校や総合病院があり、久居駅と三重中央医療センターでの乗降が多くなっており、沿線住民の通勤、通学、通院等の日常生活になくはならない路線である。しかしながら、近年輸送量が減少傾向にあり、今後も減少に歯止めがかからず輸送量が国庫補助要件の下限を下回ることとなると、路線の見直しが必要となる。様々なニーズでの利用が広がるよう、津市で取り組まれている「シルバーエミカ」との相乗効果を模索するなど、効果的な利用促進に努める必要がある。
16 三重交通(株) 久居高茶屋線	久居駅東口-イ オンモール津南 -香良洲公園	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	38.0	47.6	4.0	11.9	67.9	73.5%	輸送量 目標：36.8人 実績：47.6人	本路線は、津市南東部の香良洲地域と久居駅を結ぶ路線である。香良洲線と共に香良洲地域の住民にとっては津市中心部や津市外とを結ぶ重要な路線であるが、久居駅と高茶屋団地前での乗降が多くなっている。既に取り組まれている三重交通と沿線企業との連携（企業定期券）の効果検証や沿線周辺施設との連携等と合わせて、引き続き有効な利用促進を実施する必要がある。
17 三重交通(株) 上野名張(A)線	伊賀上野駅-上 野市駅(岡波総合 病院)-名張駅前 (車両減価償却 費等国庫補助 金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	28.5	36.7	2.7	13.6	39.6	38.5%	輸送量 目標：27.2人 実績：36.7人	本路線は、伊賀市の中心部と名張市の中心部とを連絡する路線である。特に通学（上野高等学校・名張青峰高等学校・近大高専）の市域をまたぐ利用割合が高くなっているほか、工業地帯の通勤需要も存在する。沿線地域の少子化、コロナ禍の影響による通勤利用者の減少やマイカーシフトといった要因により利用減少が進んでいることから、通勤、通学以外にも、通院や買い物など日常生活の移動手段としての沿線住民のニーズの把握、利便性の向上も必要である。
18 三重交通(株) 曾爾香落溪線	名張駅前-太良 路-山粕西	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	11.0	17.0	3.4	5.0	40.8	44.3%	輸送量 目標：15.0人 実績：17.0人	本路線は、名張市より奈良県の曾爾村へ至る路線である。曾爾村内や名張市南部地域から名張市内への通院、買い物など、県をまたがる日常生活の移動手段として重要であるほか、曾爾高原へのハイキングなど、観光利用の割合も高い路線であるが、沿線地域の人口減少、コロナ禍の影響による高齢者の外出機会の減少等の要因によって、輸送量が減少しており、国庫補助要件の下限を僅かに上回る程度である。輸送量の減少に歯止めがかからなければ路線の見直し検討が必要な状況にあり、地域住民の利便性を確保するとともに、観光需要の拡大を図るなど、さらなる利用促進を図る必要がある。

協議会名： 三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)			
			輸送量				収支率		輸送量 目標：15.0人 実績：13.4人	輸送量 目標：15.0人 実績：10.0人		輸送量 目標：15.0人 実績：7.5人	輸送量 目標：15.0人 実績：14.4人	輸送量 目標：34.9人 実績：32.6人
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)						
19 三重交通(株) 名張奥津(B)線	名張駅前一滝ノ 原口一敷津	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	C	15.6	13.4	2.4	5.6	42.1	31.2%	輸送量 目標：15.0人 実績：13.4人	本路線は、名張市内より、旧美杉村を經由して奈良県御杖村に至る山間部を運行する路線である。地域住民の通院や買い物などの日常生活の移動手段として重要な路線であるが、沿線地域の人口減少、コロナ禍の影響による高齢者の外出機会の減少等の要因によって、輸送量が減少しており、国庫補助要件の下限を下回った。地域住民の利便性を確保し、曾爾高原や東海自然歩道への観光利用の観光誘客を図るなど、今後も路線の特徴も生かした利用促進を図るほか、利用実態に合わせた運行形態への変更が必要である。			
20 三重交通(株) 阿波線	上野市駅一子延 口一汁付	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	C	8.1	10.0	1.6	6.3	32.5	22.9%	輸送量 目標：15.0人 実績：10.0人	本路線は、伊賀市中心部と旧大山田村を結ぶ路線である。市街地と地域の生活拠点や鉄道など公共交通軸へアクセスする路線であるほか、旧大山田村区間においては沿線小中学校への利用が中心となっており、スクール混乗を実施している。沿線地域の人口減少によって、輸送量が減少しており、国庫補助要件の下限を下回っているため、対策が急務である。			
21 三重交通(株) 玉滝(B)線	上野市駅一アピ タ伊賀上野店一 阿山支所前	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	C	24.0	7.5	1.0	7.5	36.4	20.4%	輸送量 目標：15.0人 実績：7.5人	本路線は、伊賀市中心部と旧阿山町を結ぶ路線である。地域の生活拠点や鉄道など公共交通軸にアクセスする路線であり、高齢者の通院、買物利用の割合が高い路線である。沿線地域の人口減少によって、輸送量が減少しており、国庫補助要件の下限を下回っているため、対策が急務である。R5.10.1からは平日運行に特化し、輸送効率の改善を図っている。			
22 三重交通(株) 上野天理線	上野市駅一大西 一国道山添	R6.3.31で廃止	0	19.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%		本路線は、伊賀市中心部と奈良県山添村を連絡する路線であったが、山添村がほぼ同一の区間を運行する自主運行バスをR6.4.1から運行開始することに伴い、R6.3.31運行分をもって同路線を廃止し、同区間における輸送は山添村自主運行バスに移管された。			
23 三重交通(株) 大杉(A)線	松阪駅前一VISON 一道の駅奥伊勢 おおい	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	B	11.2	14.4	3.6	4.0	39.5	42.3%	輸送量 目標：15.0人 実績：14.4人	本路線は、松阪駅から松阪市中心部、多気町を通り大台町まで結ぶ路線である。沿線には商業施設、病院、工業団地やリゾート施設があることから、多様な移動需要を取り込むことができる仕組みづくりが必要である。松阪熊野線と並行しているが、松阪熊野線がR6.10.1以降に減便・廃止される予定であり、本路線が松阪熊野線が担っていた松阪市内から相可高校への通学輸送を引き継ぐことで輸送量の向上が期待される。			
24 三重交通(株) 飯南波瀬(A)線	松阪駅前一大石 一道の駅飯高駅 (車両減価償却 費等国庫補助 金)	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	B	37.1	32.6	3.4	9.6	50.3	42.2%	輸送量 目標：34.9人 実績：32.6人	本路線は、松阪市中心部から松阪市山間部（旧飯高町）を結ぶキロ程の長い路線である。飯南高校をはじめとした通学での利用が多いほか、松阪市山間部と松阪市中心部を結ぶ重要な移動手段となっている。少子化の影響により、旧飯南郡からの利用が減少傾向にあるため、通勤・通学時に利用しやすい情報提供などの利用促進に努めるほか、日中時間帯の利用を増やすべく、高齢者が路線バスをより利用しやすくなる仕組みづくり、環境整備をしていく必要がある。			

協議会名： 三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
			輸送量				収支率		輸送量 目標： 実績： 人		
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)			
25 三重交通(株) 飯南波瀬(B)線	松阪駅前一道の 駅飯高駅一ス メール(車両減 価償却費等国庫 補助金)	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	17.0	18.0	3.6	5.0	45.8	39.0%	輸送量 目標：16.5人 実績：18.0人	本路線は、松阪市中心部から松阪市山間部（旧飯高町）を結ぶキロ程の長い路線である。飯南高校をはじめとした通学での利用が多いほか、松阪市山間部と松阪市中心部を結ぶ重要な移動手段となっている。輸送量が低迷しており、国庫補助要件の下限を僅かに上回る程度である。今後、輸送量減少に歯止めがかからず輸送量が国庫補助要件の下限を下回ることとなると、路線の見直しが必要となる。少子化の影響により、旧飯南郡からの利用が減少傾向にあるため、沿線のデマンドバスとの連携を強化し利便性向上に努めることで、通学以外にも多様な目的での利用促進に努める必要がある。
26 三重交通(株) 松阪大石線	松阪駅前一相可 高校前一大石 (車両減価償却 費等国庫補助 金)	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	39.1	41.4	3.6	11.5	50.9	48.5%	輸送量 目標：35.6人 実績：41.4人	本路線は、松阪駅から松阪市中心部を通り、多気町に至る路線である。沿線に高校が存在しているため通学利用が多くなっている。工業団地も沿線に存在することから、従業員の通勤利用を促進するための取組が必要である。一部区間にて、大杉線と並行しており、利用者にとって利用しやすいようダイヤの調整がなされている。
27 三重交通(株) 南島線	伊勢市駅前一川 口一南島道方	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	B	24.3	21.6	2.4	9.0	41.2	31.3%	輸送量 目標：22.0人 実績：21.6人	本路線は、伊勢市中心部より度会町を経由して南伊勢町に至る路線である。南伊勢町や度会町より伊勢市中心部への交通手段として、また伊勢市内小学生通学利用も担う不可欠な路線である。南伊勢町及び度会町沿線地域の人口減少により、通学需要が減少傾向にあるが、当地域の唯一の公共交通であり、南伊勢町の高校通学定期券購入助成制度や、伊勢市内での乗継を推進した市町間の取組で、わかりやすい乗換案内や、おかげバス「環状線」での乗継割引による利便性向上が図られている。終点の南島道方は、南伊勢町南島地域と伊勢市の重要な結節点で、南伊勢町営バスと同一車両での運行便を増大し、長時間乗車となる当路線での利便性向上を図っている。今後も引き続き南伊勢町営バスとの連携を強化することで路線維持に努める必要がある。
28 三重交通(株) 中川線	伊勢市駅前一度 会橋一度会町役 場前	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	32.2	30.8	2.2	14.0	46.1	36.5%	輸送量 目標：26.6人 実績：30.8人	本路線は、伊勢市中心部より一部玉城町を経由して度会町に至る路線である。通学目的の利用が多くを占めている路線であるが、近年、少子化によって南伊勢高校度会校舎、伊勢市内高校への通学需要が減少傾向にあるため、接続するコミュニティバスとの連携した乗り継ぎ等の利用促進策等を検討する必要がある。伊勢市のおかげバス「環状線」での乗継割引による利便性向上が図られている。
29 三重交通(株) 土路今一色線	土路一伊勢市駅 前今一色	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	C	19.8	7.8	1.3	6.0	55.0	23.1%	輸送量 目標：15.0人 実績：7.8人	本路線は、伊勢市東豊浜地区より伊勢市中心部を経由して二見町今一色地区に至る路線である。東豊浜地区及び今一色地区と伊勢市中心部を結ぶ必要不可欠な路線である。伊勢市のおかげバス「環状線」での乗継割引による利便性向上も図られている。輸送量は国庫補助要件の下限を下回っており、今後も利用の回復が見込めない場合、路線の見直しが必要な状況にある。R5.10.1からは沿線に移転開院した伊勢ひかり病院への乗り入れを実施している。
30 三重交通(株) 御座(A)線	伊勢市駅前一鶴 方駅前一御座港 (車両減価償却 費国庫補助金)	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	15.6	20.4	3.4	6.0	35.5	35.2%	輸送量 目標：15.6人 実績：20.4人	本路線は、伊勢市中心部より志摩市中心部を経由して志摩町・大王町地区に至る長い路線であり、特に伊勢方面に通学に利用する高校生にとって欠かすことのできない路線である。伊勢市のおかげバス「環状線」での乗継割引による利便性向上が図られているほか、一部の便を沿線の水産高等学校経由に変更し、通学利便の向上が図られている。一部区間において宿浦線と並行しているが、沿線地区の少子高齢化の進展の中、通学需要が減少する一方、志摩市内から伊勢方面の病院に通院する人も多いことから、地域住民のニーズ等を把握し、最適な形での利用促進に努める必要がある。

協議会名： 三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
			輸送量				収支率		輸送量 目標： 実績：		
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)			
31 三重交通(株) 御座(B)線	磯部バスセンター-鵜方駅前-御座港(車両減価償却費国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	42.0	46.4	3.2	14.5	39.7	35.2%	輸送量 目標：40.8人 実績：46.4人	本路線は、大王町地域と志摩市中心部を結ぶ路線である。志摩市内の高校への通学や、志摩地方の唯一の総合病院である県立志摩病院への通院、市内の中心地区への買い物に、この路線を利用する人が非常に多く、欠かすことのできない路線である。運転免許証返納者への割引制度を周知するなど路線の利用促進を図るほか、鉄道や地域内交通との接続の強化、観光利用での利用促進に努める必要がある。
32 三重交通(株) 宿浦(A)線	伊勢市駅前-鵜方駅前-宿浦	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	20.9	20.9	2.2	9.5	33.4	25.0%	輸送量 目標：20.9人 実績：20.9人	本路線は、伊勢市中心部より志摩市中心部近鉄鵜方駅、浜島地区を経由して南伊勢町宿田曾地区に至る路線である。浜島地区、南伊勢町宿田曾地区から伊勢市・志摩市内へ通院、通学する人にとって不可欠な路線である。鵜方駅での高校スクールバス接続、伊勢市のおかげバス「環状線」での乗継割引や、伊勢市内における停車停留所の増加により利便性向上が図られている。近年、輸送量が減少傾向にある。一部区間を御座線と並行して運行しており、ダイヤの調整等、効率的かつ利用者にとって利用しやすい運行をする必要がある。また、通学利用の乗車が平日利用の多くを占めており、通学に利用しやすいダイヤ、一部伊勢市内高校密集地域への路線延長等、利便性向上を図る等の利用促進策等を実施する必要がある。
33 三重交通(株) 宿浦(B)線	磯部バスセンター-鵜方駅前-宿浦(車両減価償却費国庫補助金)	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	12.0	14.8	3.7	4.0	48.2	48.6%	輸送量 目標：15.0人 実績：14.8人	本路線は、志摩市中心部から志摩市浜島地区を経由して南伊勢町宿田曾地区に至る路線である。志摩高校へ、また、鵜方駅で乗り継いで伊勢市内高校への通学利用があり、通学目的の乗車が平日利用の多くを占めている。また、沿線には志摩地方の唯一の総合病院である県立志摩病院があり、通院利用目的も多い。輸送量は国庫補助要件の下限を下回っており、宿浦(A)線と併せダイヤや路線の見直しが必要な状況にある。沿線地域の少子化によって通学需要が減少したほか、宿田曾地区の志摩市への移動需要の低下と、浜島地区では集落からバス停が遠く、バス停までの移動が困難であることによるバス利用の減少が考えられる。沿線住民に加えて観光客のニーズも把握し、多様な利用促進に努める必要がある。
34 三重交通(株) 五ヶ所(A)線	宇治山田駅前-横輪ロー五ヶ所バスセンター	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	12.6	15.4	2.2	7.0	36.7	31.8%	輸送量 目標：15.0人 実績：15.4人	本路線は、伊勢市中心部より伊勢市西部を経由して南伊勢町南勢地区に至る路線である。南伊勢町南勢地区から伊勢市内への通学、通院、買い物、通勤とともに、伊勢市内小学生通学利用も担う不可欠な路線である。伊勢市のおかげバス「環状線」での乗継割引による利便性向上が図られているほか、南伊勢町では町営バスとのシームレスな運行や高校通学定期券購入助成、バスの乗り方教室など多様な形で路線の利用促進が図られている。沿線地域の少子化の進展によって輸送量が下がっており、対策が急務である。終点である五ヶ所バスセンターは伊勢市と南伊勢町南勢地域の重要な結節点であり、引き続き南伊勢町営バスとの連携を強化し、接続利便性向上に努める必要がある。
35 三重交通(株) 五ヶ所(B)線	五ヶ所バスセンター-神津佐-磯部バスセンター	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	C	13.6	11.9	1.4	8.5	36.5	21.9%	輸送量 目標：15.0人 実績：11.9人	本路線は、志摩市と南伊勢町南勢地区を結ぶ路線である。磯部バスセンターでのバス乗継ぎや、志摩市内の高校への通学、磯部駅前での鉄道との乗継ぎ、通勤による利用がある。R4.10.1からのぎゅーとら五ヶ所店への乗り入れ、R6.10.1からは志摩磯部駅への乗り入れ等をおして多様な利用促進が図られているが、沿線地区における少子化の進展によって輸送量が国庫補助要件の下限を下回っており、対策が急務である。起点である五ヶ所バスセンターは南伊勢町南勢地域の玄関口という役割を担っていることから、引き続き南伊勢町営バスとの連携を強化し、接続の利便性向上に努める必要がある。

協議会名：三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)			
			輸送量				収支率		輸送量 目標：15.0人 実績：13.6人	輸送量 目標：15.0人 実績：7.3人		輸送量 目標：15.0人 実績：4.5人	輸送量 目標：15.0人 実績：4.8人	輸送量 目標：15.0人 実績：7.2人
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)						
36 三重交通(株) 熊野新宮(A)線	新町ー阿田和ー 新宮駅前	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	15.4	13.6	1.5	9.1	31.6	20.6%	輸送量 目標：15.0人 実績：13.6人	本路線は、熊野市中心部より、御浜町、紀宝町を經由して和歌山県新宮市までに至る路線である。沿線の高校及び小学校への通学利用、紀南病院をはじめとした通院利用で大きな役割を担っている。熊野市中心部や新宮市への通勤、買い物需要も存在する等、沿線住民にとって重要な路線であるが、沿線地域の人口減少によって、輸送量が減少しており、国庫補助要件の下限を下回っている。路線の維持・確保のため、R6.10.1からは熊野新宮(B)線との路線再編や、紀南病院への通院利便性向上のため昼間便を「町民サービスセンター」に乗り入れる等の対策を図っている。			
37 三重交通(株) 熊野新宮(B)線	大又大久保ー熊 野市駅前ー阿田 和ー新宮駅前	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	C	8.1	7.3	1.7	4.3	32.0	20.3%	輸送量 目標：15.0人 実績：7.3人	本路線は、熊野市山間部より、熊野市中心部を經由して和歌山県新宮市までに至る路線である。特に山間部からの熊野市中心部への買い物や通学利用、紀南病院をはじめとした通院利用で大きな役割を担う沿線住民にとって重要な路線であるが、輸送量が国庫補助要件の下限を下回っており対策が急務である。熊野市中心部～新宮市間は熊野新宮(A)線と同区間を運行しているため、R6.10.1より熊野新宮(A)と路線再編を行い、熊野新宮(A)と重複する区間を統合し「熊野新宮線」に、熊野市山間部～熊野市中心部は「大又線」として分割すると同時に、熊野市商業施設沿線へ乗り入れることで、山間部から市中心部への買い物利用の利便性向上を図っている。			
38 三重交通(株) 松阪熊野線	松阪中央病院ー 松阪駅前ーVISON ー三交南紀	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	C	6.6	4.5	1.5	3.0	18.8	13.3%	輸送量 目標：15.0人 実績：4.5人	本路線は、松阪市中心部から国道42号に沿って南下し、熊野市中心部まで至るキロ程が極めて長い路線である。沿線には、相可高校、病院、リゾート施設VISONや熊野古道への観光利用といった多用途で利用できる路線であったが、輸送量は国庫補助の要件の下限を下回っていること、片道あたりの所要時間が4時間を超えるため路線の全区間を通しての利用は極めてまれであること、JR紀勢本線や大杉線、尾鷲長島線、熊野新宮(B)線と並行していることから、R7.3.31をもって路線を廃止することとなった。			
39 三重交通(株) 島勝線	瀬木山ー尾鷲 駅、白浦ー島勝	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	C	6.7	4.8	1.0	4.8	31.4	15.7%	輸送量 目標：15.0人 実績：4.8人	本路線は、尾鷲市中心部より、旧海山町中心部を經由して旧海山町東部の島勝浦地区へ至る路線である。島勝地区では尾鷲市須賀利地区コミュニティバスと接続しており、同地区住民の尾鷲市中心部地区への通院や買い物等移動手段としても重要な役割を担っている。沿線地域の人口減少によって、輸送量が減少しており対策が急務である。尾鷲市中心部から旧海山町中心部においては尾鷲長島線と並行し、ダイヤが重複する時間帯も存在していたため、R6.10.1より路線再編を行う。本路線は海山バスセンター～島勝浦地区間の輸送に特化すると共に、昼間の運行便を旧海山町中心部の商業施設・医療機関沿線へ乗り入れることで買い物・通院利用の利便性向上を図っている。			
40 三重交通(株) 尾鷲長島線	瀬木山ー尾鷲 駅、古里ー長島 駅前	A 所定の事業計画どおりの運行が実施された。	C	7.2	7.2	1.1	6.6	29.6	15.9%	輸送量 目標：15.0人 実績：7.2人	本路線は、尾鷲市中心部から旧海山町を経て、旧長島町を結ぶ路線であり、利用促進のため、高等学校通学ダイヤの設定や通学定期補助等の取組を実施している。尾鷲市総合病院での乗降が多く通院のための利用が中心である。また、馬越峠へのアクセスのための観光目的の利用や、沿線中学校や高校への通学や、就労継続支援施設への通勤需要が存在する。沿線地域の人口減少によって、輸送量が減少しており、対策が急務であるため、R6.10.1より、海山バスセンターを境界として、紀伊長島駅前～海山バスセンター間の輸送を担う「海山長島線」、尾鷲市内～海山バスセンター間の輸送を担う「尾鷲海山線」に路線を分割し、海山バスセンターでの接続を考慮することで、運行の効率化と利便性の維持の両立を図っている。			

協議会名：三重県地域公共交通協議会

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統）

⑤達成状況は、目標達成（100%以上）をA、目標未達成路線のうち目標値90%以上の路線をB、それ以外をCとした。

①補助対象事業者等	②事業概要	③事業実施の適切性	④目標・効果達成状況 (目標：輸送量の維持)								5事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
			輸送量				収支率				
			R6 計画 (人)	R6 実績 (人)	平均乗 車密度 (人)	運行 回数 (回)	R6 計画 (%)	R6 実績 (%)			
41 三重交通(株) 亀山本線 (亀山市・津市 廃止代替バス路 線)	亀山駅前－安知 本－椋本	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	C	9.3	10.2	1.1	9.3	33.1	22.0%	輸送量 目標：15.0人 実績：10.2人	本路線は、亀山市と津市（芸濃地域）を結ぶ唯一の広域バス路線であり、JR亀山駅に接続し高等学校への通学利用目的も多い。輸送量は厳しい状況が続いており、学生の通学利用や沿線住民の日常利用などの利用喚起が必要である。亀山市、津市との連携による利用促進啓発活動にも取り組まれている。
42 三重交通(株) 亀山みずほ台線 (亀山市・鈴鹿市 廃止代替バス路 線)	亀山駅前－みず ほ台－平田町駅	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	14.2	17.2	2.3	7.5	41.6	38.6%	輸送量 目標：15.0人 実績：17.2人	本路線は、亀山市中心部より、亀山市内の大規模団地沿線を経由してと鈴鹿市に至る路線である。亀山市、鈴鹿市の廃止代替路線であり、起点である亀山駅、終点である近鉄平田町駅での乗降が多くなっており、JR関西本線と近鉄鈴鹿線を繋ぐ役割も担っているといえる。また、沿線のJR井田川駅や大型商業施設（イオンモール鈴鹿）での乗降も比較的多い。輸送量は国庫補助要件の下限を僅かに上回る程度に留まっているので、通勤、通学利用者のほか、上記大型商業施設の利用者へ利用促進等を行う必要がある。
43 八風バス(株) 梅戸(B)線	桑名駅前－伊坂 台－桑名西高等 学校	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	90.6	89.0	5.6	15.9	82.2	81.4%	輸送量 目標：55.5人 実績：89.0人	本路線は、桑名駅より桑名市南部を運行し、四日市市の北部地域を経由して桑名西高校へと至る路線である。沿線居住者の通勤・通学等の重要な公共交通手段となっている。朝夕は上り下りともに利用者が多いが、日中の利用者を増やすために買い物利用をはじめとした生活利用の促進が必要である。
44 三重急行自動車 (株) 大杉(B)線	松阪駅前－射和 －シャープ南－ VISON	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	C	11.1	13.2	4.4	3.0	67.9	63.4%	輸送量 目標：15.0人 実績：13.2人	本路線は、松阪市中心部と多気町を結ぶ路線である。R5.10.1よりリゾート施設であるVISONへ乗り入れており利用の増加が期待されていたが、想定より利用が伸び悩み輸送量が国庫補助要件の下限を下回った。路線が重複していた松阪熊野線がR7.3.31をもって廃止予定であり、これまで松阪熊野線が担っていた輸送を今後は本路線が担うことから輸送量の伸びが期待される。
45 三交伊勢志摩交通 (株) 伊勢玉城線	伊勢市駅前－メ ガ・ドンキホー テ－田丸城跡－ 上地－伊勢市駅 前	A 所定の事業計 画どおりの運 行が実施され た。	A	24.1	22.3	2.4	9.3	45.5	29.7%	輸送量 目標：15.0人 実績：22.3人	本路線は伊勢市中心部より伊勢市北西部、玉城町内を運行する路線である。令和元年10月より「松阪伊勢線」と伊勢市、玉城町が運行している廃止代替路線バス「玉城線」と路線を統合し、三交伊勢志摩交通が運行を行う伊勢玉城線として、運行の効率化、生産性の向上を図っている。主な利用が伊勢市中心部における利用であり、今後は伊勢市～玉城町間の移動需要の取り込みを図ることが必要である。